

ウイットディア・ルートのアラスカ鉄道は起伏が少ないので機関車は一両だけ



アラスカ鉄道 (上)

アラスカクルーズ②

アラスカで最初に頭に浮かんだのは、ロシ ア領であったこの地を アメリカが買ったとい うことだ。

一八五三年、聖地エルサレムをめぐってロシアとオスマントルコとの間で戦争となる。クリミア戦争だ。翌年にはオスマントルコ側にイギリス、フランスなどが加担し、戦争は三年間も続く。やつとパリ講和条約で戦争は終結するが、勝者なき戦争ともいわれ、関係国の経済は疲弊した。

争ともいわれ、関係国の経済は疲弊した。

ところが、その地から金や石油などの地下資源が発見され、水産・木材などの資源にも恵まれているとわかると評価は一変する。世論とはとかくこのようなものである。

だ。
起点は中央アラスカ
キナイ半島の南端、太
平洋に面した不凍港の
港町、スワード。アラ
スカ買収に貢献したス
ワード長官の名前をつ
けた町だ。ここからア
ンカレッジを経由して

ちらはクルーズ観光客を乗せるため夏の間だけ毎日運行されてい
る。

てゆつくりと走る。雄
大な自然の中をのんび
りと走るアテスカ鉄道
は魅力的だ。

る広大な土地を、今のお金で約一兆円でアメリカは買ったのである。

今でもアラスカを売ったことがトラウマになつてゐるという。確かに、もしアラスカがロシア領のままであつたら軍事的にみてもその影響は計り知れない。さて、アラスカは金鉱が発見され、ゴールドラッシュとなる。資源を船で輸送するため、九年の歳月をかけてアラスカ鉄道が完成したのは一九一三年

今回乗ったアラスカ鉄道はこの本線ではなく、アンカレッジから氷河を見ることができ
るプリンス・ウイリアム湾に面した、クルーザー船の発着地であるウイットティアまで約二
十キロの支線である。この全長約八百キロ、起伏が多いので現在はディーゼル車を二両連結し
て十六時間かけて走る。

してしばらくすると車内放送で「左手の山の中腹に野生の羊が見える」という。あわてて双眼鏡を取り出して見ると「ドール・シープ」というヤギに似た野生の羊がおり、角は大きくカーブしている。雄だ。この間、列車はスピードを落とす。

内陸のフ
エアバン
クスまで

イーゼル車が写真の上
うによく見える。

藤屋 倪士
(下松市幸ヶ丘)

306



野生動物が見つかると列車はスピードを落とす

野生の羊、ペール・シップ
(動物図鑑から)